

主催：奈良県

平成29年度 第1回「地域フォーラム」次第

本日のテーマ：「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

日 時：平成29年7月30日（日）
9時30分～11時30分
会 場：上牧町文化センター ペガサスホール

1. 開 会

知事あいさつ

2. パネルディスカッション

○コーディネーター

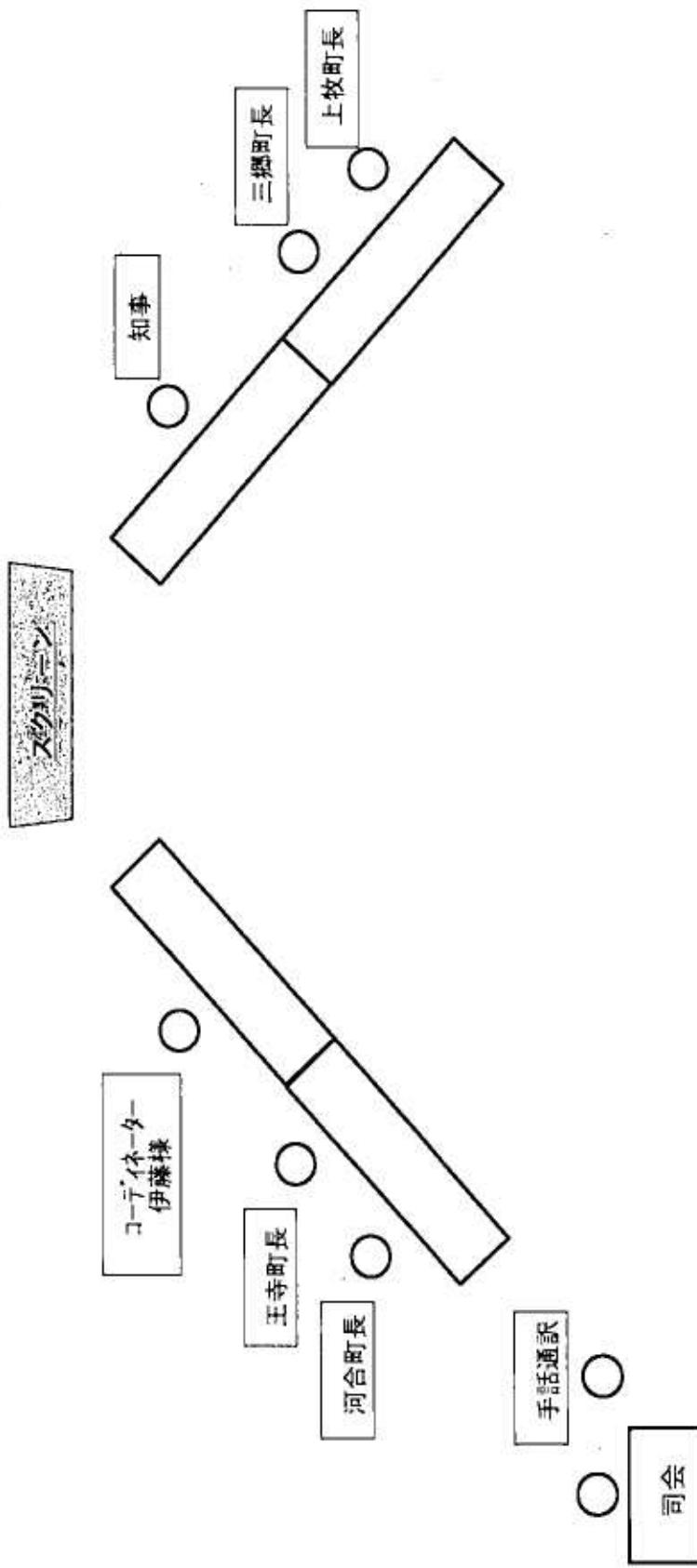
・ 奈良テレビ放送 アナウンサー
伊 藤 将 也

○パネリスト

・ 三郷町長 森 宏範
・ 上牧町長 今中富夫
・ 王寺町長 平井康之
・ 河合町長 岡井康徳
・ 奈良県知事 荒井正吾

3. 閉 会

第1回地域フォーラム 座席表





平成29年度 第1回「地域フォーラム」

テーマ：「協働と連携のまちづくり・
奈良モデル」



©NARA pref.

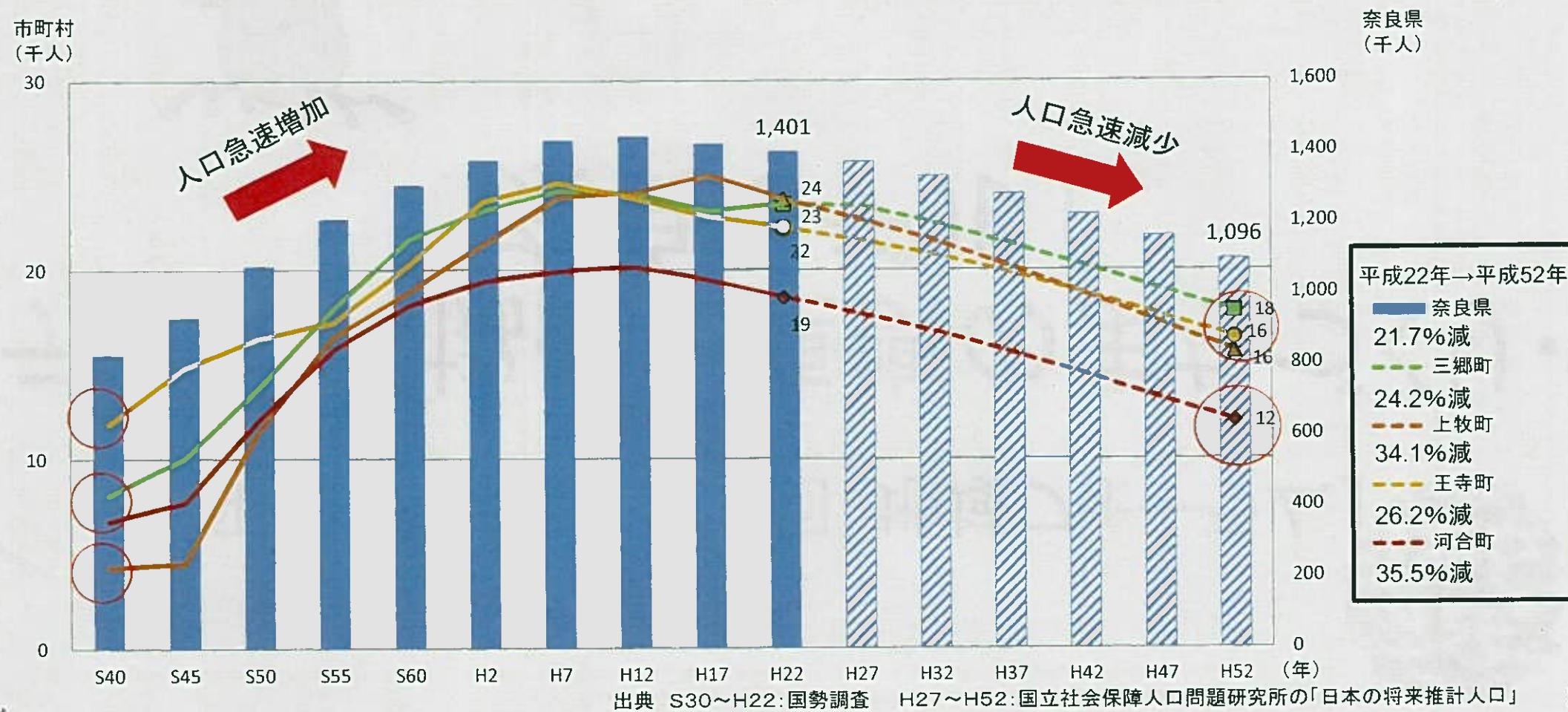
第32回国民文化祭・なら2017
第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会
2017.9.1~11.30開催

平成29年7月30日
上牧町文化センター

奈良県知事 荒井 正吾

地域内の人団推移

- 県内人口は、平成22年140.1万人から平成52年109.6万人に減少すると推計されています。
- 三郷町、上牧町、王寺町、河合町においても、今後急速な人口の減少が進み、県平均よりその速度が速くなることが予測されます。
- ベッドタウンとして人口が急速に伸びた地域は、世帯が高齢化し、その子どもが地域外に進学・就職することになり、人口が急速に減少します。(ベッドタウンの急速高齢化、急速人口減少)



急速高齢化と急速人口減少地域の課題

○このように地域の課題はつきつめると次のようなことです。

- ①若者に、地域内で「働く場」を与えること
- ②高齢者が地域で医療・介護のサービスが充分与えられ、安心した老後が送れるようにすること
- ③女性にとって働き易く、結婚し易く、子育てし易い地域にすること

○このような「脱ベッドタウン」「バランスのとれた地域づくり」の必要性に、早く気づき、地域ごとの対処法を発見し、強力にそれを推進することが必要ですが、そのためには、次のようなことに心掛ける必要があります。

- ①住民へのサービスを維持していくためには、「財政の健全度」に配慮する
- ②地域行政の効率化を図り、地域行政サービスをできるだけ高い水準で維持する
- ③地域行政効率化、行政サービスの高水準維持のために「地域間連携の推進」「県との連携協働の強化(奈良モデルの実現)」を図る
- ④「脱ベッドタウン」「バランスのとれた地域づくり」のための個別の具体的支援の方法を発見し、実現を図る

県内各市町村の経常収支比率の健康診断表

(全国平均を目安に「健康」と「要治療」に区分)

○経常収支比率(低い方が健康)の健康診断表では、「健康」とは、経常収支比率が全国平均未満であることをいい、「要治療」とは、経常収支比率が全国平均以上であることをいいます。

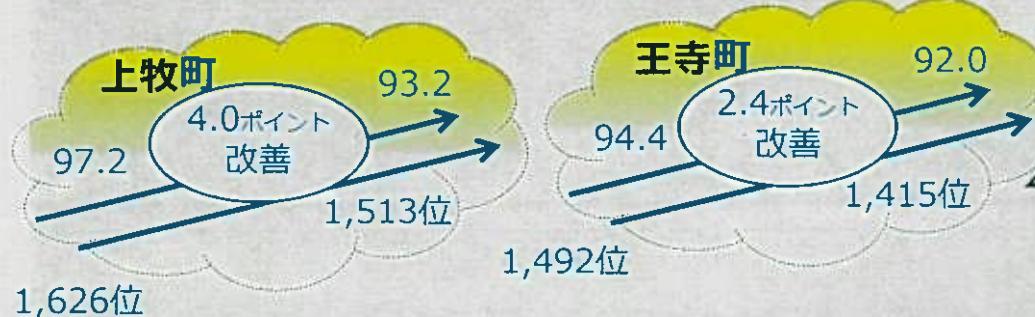
○順位は全国市区町村数(1,741)の中の順位です。矢印は平成26年度(左)と平成27年度(右)の変化を表します。

全国平均(90.0)より悪い

全国平均(90.0)より良い

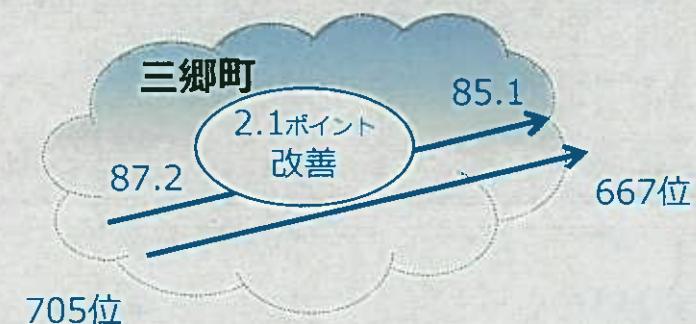
「要治療」であるが前年度よりも数値改善

「健康」でかつ前年度よりも数値改善



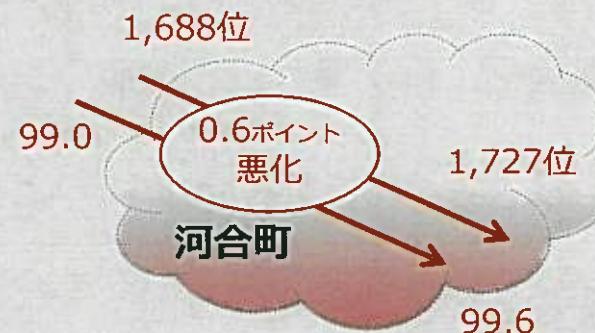
低下

上昇



「要治療」でかつ前年度よりも数値悪化

「健康」であるが前年度よりも数値悪化



該当団体なし

地域行政の効率化とサービスの高水準維持のための取組（奈良モデル）

奈良モデルとは、人口減少・少子高齢化を見据えて、**地域の活力の維持向上**や**持続可能で効率的な行財政運営**をめざす、市町村同士または奈良県と市町村の連携・協働のしくみです。

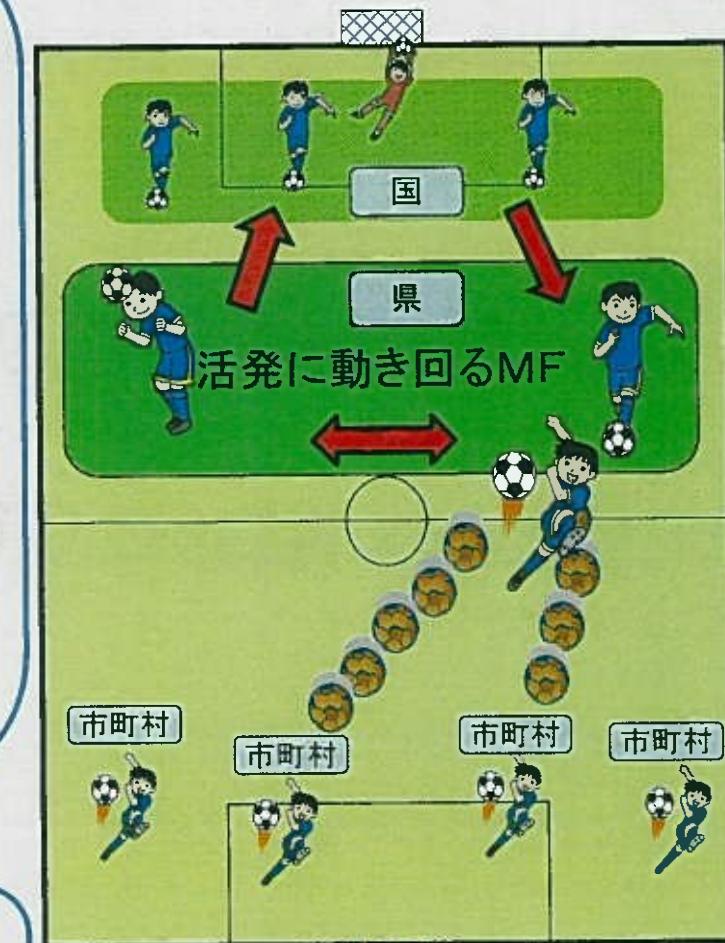
○奈良モデルの基本的な考え方とは

- ①県と市町村は**対等な立場**に立つ地方公共団体
- ②県と市町村は、国を含む他の公共団体と契約を結び、柔軟に**連携・協働**できる
- ③県と市町村は、それぞれが有する**資源（職員、予算、土地、施設）**を**県域資源**として捉え、**県全体で有効活用**する

○市町村を下支えする県の役割とは

○県は、サッカーに例えると、国と市町村の間に立つミッドフィルダーです。

市町村がゴールを決められるよう、**良きボランチ**として自ら考え、国からのボール(政策、情報、予算など)をコントロールし、うまくパスします。



○国とも対等の立場で、国へ積極的に提案・要望します。

【県の役割（イメージ）】



ごみ処理の広域化②

施設整備を契機とした地域連携
(防災・教育・交流等)

安定的なごみ処理の継続



広域化のメリット

関係市町村の行財政運営の効率化

スケールメリットによる効果・効率的な資源循環
(高効率の発電・温熱利用・リサイクル促進等)

焼却施設建設費の試算



焼却施設運営費シミュレーション

年	運営費 (千円)
H27	1,320,000
H28	1,000,000
H29	800,000
H30	600,000
H31	400,000
合計	4,320,000

三郷町における協働と連携

奈良県との連携

- 「国民文化祭」との連携による「風音祭 in 龍田大社」の開催
- 「奈良県四季彩の庭づくり」との連携による大門ダム周辺の植栽

奈良モデル

- ごみ処理広域化
- 税のコールセンターの活用
- 大和川周回ジョギングルートの整備
- 国民健康保険の広域化
- 公会計の策定

地域間連携

- 広域観光ルートの整備
(柏原市・香芝市・玉寺町)
- ツーデーウォークの開催
(平群町・斑鳩町・安堵町)
- 友好都市協定
(長野県安曇野市・埼玉県三郷市)
- 包括協定 (大阪府柏原市)

官民協働

- 生ごみ資源化事業
(リサイクルフローセンター)
- 産官学地域活性化連絡協議会
(奈良学園大学・西和清陵高校・商工会)
- 農業振興のためのNPO法人の発足
(町内農家)

2

資源化への取り組み①-1

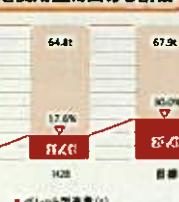
町内で排出される間伐材



資源化



ペレット製造量と使用量に占める割合



5

ごみ処理の広域化①

夷隅町・大和高田市・山南町・
安堵町・斑鳩町・三宅町・上牧町
・広陵町・河合町・三郷町

山辺・県北西部広域環境衛生組合

なぜ??

● 平成35年の稼働を目指す



平成2年稼働

耐用年数15~20年

▶ 26年経過

▶ 改修後17年経過

▶ 施設全体が老朽化

▶ 耐久性が顕著

▶ 維持修繕費の増大

人口の増加

▶ H22年をピークに排出量減少傾向

▶ 1人あたりの排出量 280kg (H28)

3

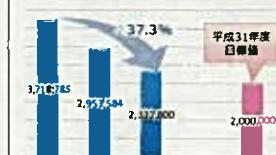
資源化への取り組み①-2

木質ペレットの活用

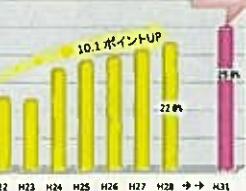


結果

燃料費推移 (円)



ごみの資源化率 (%)



6

資源化への取り組み② 【生ごみ資源化モデル事業】



△ 三郷町長 森 宏範

10

△ 三郷町
まちなかくらし

協働と連携のまちづくり

奈良県
植栽計画との
協働・連携



信貴山「四季彩の庭」づくり

観光事業として、信貴山地区全体を一つの庭と捉え、大門ダムを中心に、ダム周辺や道路に植栽し、庭づくりを展開する。



果たして



北葛城
Kitakatsuragi
すむ・奈良・ほっかつ！～移住プロジェクト～
上牧町長 今中 富夫

3. 北葛城郡各町の特色

王寺町	奈良県内有数の乗降者数を誇る王寺駅 利便性、情報発信力に優れている
広陵町	風見丘陵公園、生産量日本一の靴下 自然・観光（楽しさ）に優れている
河合町	教育施設の充実、空き家問題の先進的取組 環境整備・課題解決に優れている

北葛城郡4町 共通の課題	知名度の低さ	少子高齢化
	人口減少	空き家問題

4

1. 上牧町の現況①

人口 22,764人（平成29年6月末現在）

面積 8.14km²（奈良県39市町村中36番目の大きさ）

- 魅力 ① 静かで心が落ち着き安らげる環境
② 商業・医療・文化・公共施設が整っている
③ 近隣に駅や大きな公園、教育施設がある



2

4. 北葛城郡4町連携による移住促進策

事業名 すむ・奈良・ほっかつ！～移住プロジェクト～

＜事業の概要＞北葛城郡4町（上牧町・王寺町・広陵町・河合町）がそれぞれの魅力を結集し、弱みを補い合いながら、少子高齢化・人口減少の課題解決に向けて、移住促進について各町が役割分担のなかで連携して取り組むもの。

＜事業の骨格と各町の役割＞



すむ・奈良・ほっかつ！推進協議会（事務局：上牧町）

5

2. 上牧町の現況②

課題 少子高齢化・人口減少問題

- 原因 ① 鉄道駅がない
② 高校・大学がない
③ 観光資源・特産物が乏しい
④ 産業がなく、雇用も生まれにくい

町単独で解決するには莫大な費用と時間がかかる…

何かいいアイデアはないか ➡ ヒント 奈良モデル

北葛城郡4町連携による移住促進施策
すむ・奈良・ほっかつ！～移住プロジェクト～

3



6

5. すむ・奈良・ほっかつ！プロモーション

＜主な制作物＞

- ・プロモーションビデオ
- ・パネル・ポスター・パンフレット・チラシ
- ・ホームページ

＜主なプロモーション実施内容＞

- ・シネマティック
- ・近鉄大阪線・田原本雄等の車両広告
- ・テレビCM（テレビ大阪）
- ・ラジオ番組（FM802 毎週日曜午前11:00から）※2017年1～3月期
- ・リスティング広告（WEB）
- ・移住説明会（大阪商工会議所）FM802「SING」試聴会タイアップ企画



8. すむ・奈良・ほっかつ！事業の成果

＜事業の成果について＞

本事業は地方創生加速化交付金を活用して実施したものであり、人口及び移住者の増加による地域活性が目的である。

＜平成28年度北葛城郡の社会増減一覧表＞

	上牧町	王寺町	広瀬町	井合町	ほっかつ
新規登録	794人	1,090人	1,272人	511人	3667人
転出登録	760人	966人	1,202人	584人	3512人

（社団）H27年度

34人 124人 70人 -73人 155人

（社団）H27年度

-4人 123人 35人 -88人 81人

ほぼ
倍増！

前向きな成果を得ることができた

10

6. すむ・奈良・ほっかつ！魅力体感イベント

＜開催イベント＞

- スタートイベント（10月／高見丘陵公園）
- 魅力体感イベント第1弾（11月／あべのキューズモール）
- 魅力体感イベント第2弾（12月／なんばパークス）
- 魅力体感イベント第3弾（1月／大立山まつり）
- 魅力体感ツアーアイベント（3月／大阪北葛城郡）



9. すむ・奈良・ほっかつ！今後の展開

＜プロモーションの継続＞

平成28年度に作成した成果物を利用しながら、オンラインメディアの活用を中心に予算の範囲内で効率的かつ効率的な情報発信していく。

＜イベントの実施＞

北葛城郡内に実施するイベントへの出展のほか、平成28年度に引き続吉大立山まつりへの参加、また東京で行われるイベントにも参加する。

＜空き家の利活用＞

現在蓄積している情報の発信及び派遣につなげるため、不動産会社との連携により、コールセンター機能も含めた仕組みの構築を行う。

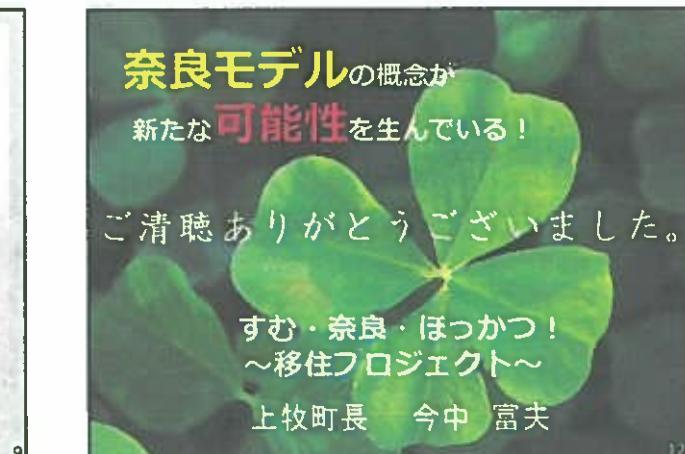
地域間・政策間連携による課題解決

11

7. すむ・奈良・ほっかつ！空き家ストックファイル

＜事業概要＞

北葛城郡各町内の空き家または将来空き家になる可能性のある戸建て住宅を対象に住宅診断（インスペクション）を実施し、その診断結果による情報をもとに「空き家ストックファイル」を作成した。実施結果として、4町合計 189件のデータを蓄積することができた。



12

平成29年度 第1回「地域フォーラム」テーマ「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

効率的な行政運営による
にぎわいあるまちづくりを目指して！

平成29年7月30日

王寺町長 平井 康之

①王寺駅周辺のまちづくり(奈良県との連携)

事業概要: 奈良県の西和地区の拠点として、公共交通の結節点でもある「王寺駅」の周辺部で都市機能の集約を図り、にぎわいある中心市街地の形成を図る。

財源: 奈良県補助金

取組: まちづくり基本構想を取りまとめ、計画の熟度を高める。



②大和川の河川空間の利活用(国・県・三郷町との連携)

事業概要: 大和川の高水敷を活用し、1周4kmのジョギングコースを整備

多聞橋・若草橋にイルミネーションを設置

財源: 奈良モデル推進補助金等

整備状況: 平成29年3月に全線を供用



③2市2町広域観光ルート整備事業(大阪府柏原市、奈良県香芝市、三郷町との連携)

事業概要:隣接する4市町が、亀の瀬渓谷を中心に、各々の地域資源の価値を高め、情報発信の強化と連携により、交流人口の拡大や郷土への愛着を育み、住んでいることを誇りにもてる地域づくりに取り組む

財 源:地方創生推進交付金

取 組:平成28年度は地域資源の確認及び観光ルートを検討

平成29年度からは、遊歩道や案内サインの整備を進める

④すむ・奈良・ほっかつ 移住・定住プロジェクト(上牧町、河合町、広陵町との連携)

事業概要:北葛城郡4町が連携し、大阪府民をターゲットに地域を売り込み、移住・定住人口の拡大を図る

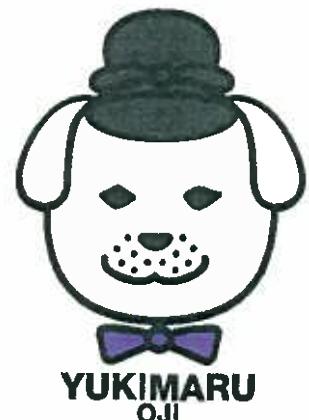
財 源:地方創生加速化交付金

取 組:平成28年度は初年度の取組として、地域イメージやブランドに関する広報に取り組み、認知の拡大を図った。

今後は移住希望者へ提供できる住宅情報の収集・情報発信を実施。



緑と智につつまれる暮らし。



かわい浪漫 PROJECT

①概要

〈平成26年6月 連携協定を締結〉

目的
「人口減少」「少子高齢化」「空き家の増加」等の課題に対し、適切な対策を講じることで、河合町の活力維持・再生を図る



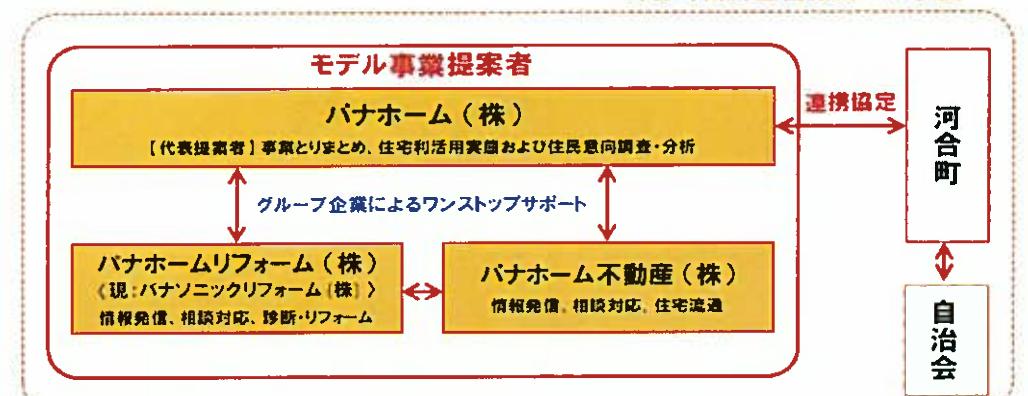
岡井康徳 町長(左)と藤井康熙 パナホーム前社長(右)
【於 河合町役場】

取り組み
■定期的な勉強会(課題・対策検討会)の実施
■国土交通省が所管する
「住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業」
への協働
⇒アンケートやヒアリング調査への支援



かわい浪漫プロジェクトロゴ

②空き家利活用



主な協力事業者

(一社) 移住・住みかえ支援機構
子育て世代への住宅環境の推進

大阪ガス行動観察研究所（株）
〈現：(株)オージス総研〉
調査・分析活動における連携

③暮らしのご相談センター

【各種相談内容】

- 住宅診断に関する相談
 - ・お住まいの状態が気になる
 - ・木造住宅の耐震診断のお申し込み
 - ・リフォームに関する相談
 - ・お住まいのリフォームを検討している
 - ・燃料で設計や見切りをして欲しい
 - 新築や建替に関する相談
 - ・土地を購入して家を建てたい
 - ・現在のお住まいを建て替える
- 不動産の売買に関する相談
 - ・住宅や土地を売りたい
 - ・中古住宅や土地を探している
 - 不動産の賃貸に関する相談
 - ・住まいを賃貸住宅として貸したい
 - ・賃貸住宅を探している
 - 空家や空地の活用に関する相談
 - 所有している空き家の利活用を考えている
 - ・空地を有効に活用したい



暮らしのご相談センター内観

イオン西大和店2階

奈良県北葛城郡河合町中山台2-7
受付時間：10:00～18:00(水曜定休)
TEL: 0120-568-356



④住宅診断(インスペクション)



小屋裏に雨漏りの跡 床下にシロアリ被害がないか 木材の含水率の確認



無料

《受診のメリット》

毎日が安心

普段目にしない床下や天井裏の状況など、大切なお住まいに支障がないか、建物のプロがチェックさせていただくことで安心してお住まいいただけます。

将来にそなえて

安心して暮らしていくために、いつ頃、どの部分に、どれくらいの費用をかけてメンテナンスすればよいのか、見通しを立てることができます。

利活用時のトラブル防止

将来的な売却や賃貸化をお考えの場合、賃主や借り手との間で、建物の不具合についてのトラブルを未然に防止できます。

都市再生機構(UR都市機構)との連携

平成28年4月
広報活動に関して連携協定を締結

町内的好立地にあるUR賃貸団地へ、人を呼び込むよう互いに協働

協力事項

【河合町】

町内UR賃貸団地のPRチラシ等を公共施設に配架、広報紙等への挿み込み、及び町イベントでの配布を行う。

【UR都市機構】

河合町が移住定住に関して作成したチラシ等についてUR都市機構の募集窓口等に配架等で、河合町外在住者への広報活動を行う。

奈良県初の河合町内UR賃貸団地の企画住宅「暮粹～くらしつく～」のチラシ



奈良県とのまちづくり包括協定に向けて

河合町の“総合的な住みやすさ”を生かし、『暮らす』をテーマに町内近鉄田原本線の池部駅、佐味田川駅及び大輪田駅の3駅周辺地区を中心としたまちづくりの基本的な方針を整理し、定住・交流人口の増加や福祉サービス等の都市機能の集約を図ることを目的に、県営馬見丘陵公園等も含めて奈良県とのまちづくり包括協定に向けた取組を進めたい。

